

平成27年度 米子東高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

学校長は「21世紀を担うリーダーの育成」という継続的学校ビジョンのもと、「1. 人間理解のできる生徒の育成」「2. 課題意識のある生徒の育成」「3. 自己表現のできる生徒の育成」を学校目標として教職員の指導力を発揮している。

教職員の責任分担の透明化及び意思決定の迅速化を狙い、校務分掌組織を従来の10分掌から6分掌に削減した。

学力向上、心の教育推進、健康・体力の推進、地域社会に関心・信頼される教育活動の展開を本年度の重点目標に掲げている。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 学びの質を深めるため、「アクティブ・ラーニング」の積極的実践、県外エキスパート教員との交流、教科研修、公開授業、習熟度別授業の工夫、入試問題の研究・情報収集、授業アンケートの実施は継続・発展していただきたい。
- ② 学習環境の整備では、授業に集中できる環境整備、改善目標・計画の文章化及び定期的なチェック、図書館の多角的利用、海外の学校との交流、講演会の開催は継続・発展していただきたい。
- ③ 進路指導では、1年次からの計画的職業研究、社会人講師の活用による職業研究、充実した個別面談、教職員と生徒・保護者との情報共有化は継続・発展していただきたい。
- ④ 生命科学コースの充実では、他大学との連携による探究的学習は画期的であり、継続・発展していただきたい。
- ⑤ 心の教育、健康・体力増進では、挨拶等、規範意識の地道な徹底、生徒会・LHRの充実、部活動の活性化は継続・発展していただきたい。
- ⑥ 地域社会に信頼される教育活動では、ホームページの更新・充実、PTAの積極的な参加、学校便りの充実、学校関係者との意見交換は重要度を増すので、継続・発展していただきたい。
- ⑦ 定時制において、教職員と生徒の厚い信頼関係が構築されている。今後も継続・発展していただきたい。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 教職員により生徒指導方針に温度差が見受けられるので、必要な生徒には積極的な対話を望む。
- ② SNSによるトラブルを含めインターネット上の問題は拡大する可能性があるため、具体的な防止策の構築と実施を期待する。
- ③ 道徳教育に関し、全体計画の作成のみならず個別問題を取り上げ、LHRを中心に徹底的な議論を通して、生徒の社会の一員としての意識向上を期待する。
- ④ 教職員の新規の取組に関し、最終目標を設定し実行を管理されることを望む。
- ⑤ 生徒による学校行事、生徒会活動等への積極的かつ自発的な参加への指導を望む。
- ⑥ 手話に取り組む方法を考えていただきたい。
- ⑦ 教育目標に定性的表現が多いため、評価の確認が困難な場合があるので、定量的な表現を取り入れることを望む。